

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会  
三神農業振興センター

「稲作情報（第4号）」について（送付）  
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

## 稲・大豆作情報（第4号）

### 1. 情報田生育調査結果について

#### (1) 耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	ヒノヒカリ (鳥栖市)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神崎市)
移植日(月日)	6月11日 (平年：6/10)	6月23日 (平年：6/20)	6月19日 (平年：6/21)	6月20日 (平年：6/21)
栽植密度(株/㎡)	15.7 (52.5株/坪)	18.5 (61.6株/坪)	18.8 (62.6株/坪)	16.8 (55.9株/坪)

#### (2) 調査結果（7月20日現在）

品種名	夢しずく	ヒノヒカリ	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)	74.3	52.5	55.1	46.7
平年値(平年比)	75.2(99)	51.1(103)	51.2(108)	46.7(100)
茎数(本/㎡)	321	398	436	538
平年値(平年比)	338(95)	479(83)	475(92)	630(85)
葉齢(L)	11.1	10.2	10.6	10.5
平年値(平年比)	10.7(+0.4)	10.4(-0.2)	10.6(±0)	10.8(-0.3)
葉色(SPAD値)	44.7	45.8	42.0	42.6
平年値(平年比)	40.5(110)	41.7(110)	41.5(101)	42.1(101)

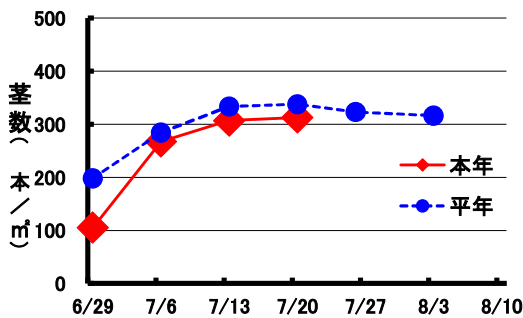


図1 夢しずく茎数の推移

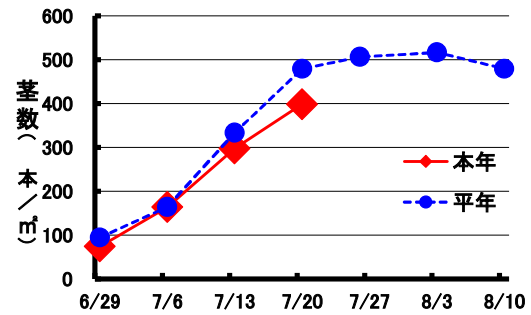


図2 ヒノヒカリ茎数の推移

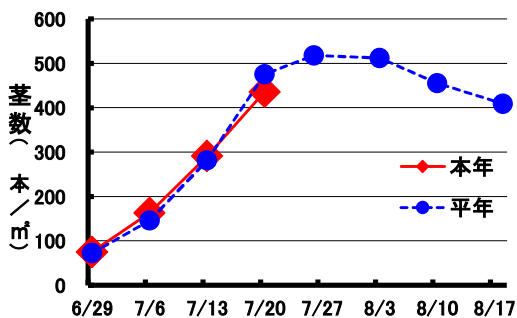


図3 さがびより茎数の推移

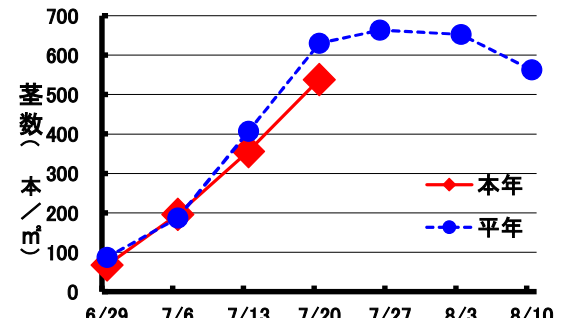


図4 ヒヨクモチ茎数の推移

## 2. 気象及び普通期水稻の生育概況について（7月22日現在）

### （1）気象（7月13日～18日までの期間）

- 【平均気温】 平年より0.2℃高い。
- 【日照時間】 日年比48%と短い。
- 【降水量】 平年比90%と少ない。

### （2）生育概況

草丈は「ヒヨクモチ」は平年並み、その他の品種では平年に比べやや高く、茎数はいずれの品種も平年に比べやや少なくなっている。主幹葉齢の展開は、ほぼ平年並みとなっている。

## 3. 普通期水稻の今後の管理について

### （1）水管理

#### ①「夢しずく」の水管理

- ・ 移植が6月10～14日頃の圃場では、間もなく幼穂形成期となる。
- ・ 幼穂形成期を迎えた圃場は、中干しを終え、穂ばらみ期まで「**間断冠水**（2日湛水3日落水）」を実施する。

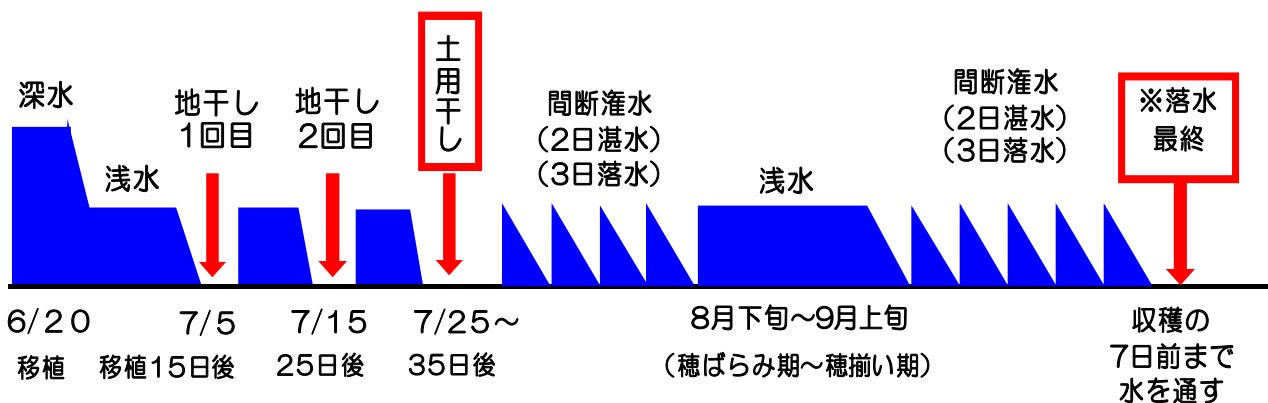
#### ②「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」の水管理

- ・ 幼穂形成期は、中生品種で8月上旬頃、晩生品種で8月中旬頃となる。
- ・ 1株あたり茎数が20本以上確保できた圃場は、下の表1を参考に落水し「中干し」を実施する。
- ・ 1株あたり茎数が20本以上確保できていない圃場では、分げつの確保及びスクミリゴガイの食害回避のため、浅水管理を基本に行う。

表1. 品種毎の中干し時期（圃場の生育状況に合わせて実施する）

品 種 名	中干しの時期	中干しの程度
「ヒノヒカリ」 「天使の詩」 「ヒヨクモチ」	7月20日～25日頃	やや強め 土に約1cmヒビが入る程度（白乾手前）
「さがびより」		弱め 土は黒く軽くヒビが入る程度

※排水不良田では、白乾が始まる程度のやや強めの中干しを行う。



～中干しの効果～

- 無効分けつの発生を抑制する（過繁茂防止、生育量の適正化）
- 田面を固める（収穫作業と麦播種作業の効率化）
- 土壌中に酸素を送り、根の活力UP、有害ガスの除去

～ 弱め ～  
土は黒く軽くヒビが入る程度



～ やや強目 ～  
土に約1cmヒビが入る程度



(2) 追肥

- ・「ヒヨクモチ」は、中間追肥の時期を迎えている。
- ・元肥にL P肥料や元肥一発肥料等を使用した圃場以外では、下の表2を参考に圃場の生育状況に応じ、中間追肥を施用する。

表2. 「ヒヨクモチ」の中間追肥時期

品種名	移植時期	中間追肥の時期	施肥量の目安
ヒヨクモチ	6月18～20日	7月15～20日頃	地区暦に準じて行う

※元肥に有機肥料を使用した圃場や大豆跡は中間追肥を除く。

(3) 穂肥

- ・夢しずくは7月下旬頃から穂肥の施用時期を迎える。
- ・必ず「穂肥診断」(葉色と幼穂長を確認)を実施し、下の表4を参考に穂肥を施用する。
- ・葉緑素計 (SPAD) で葉色 40 以上又は草丈 80cm 以上の圃場で穂肥は施用しない。

表3. 夢しずくの穂肥診断基準

幼穂形成始期草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	現物量 (BB602)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a	山麓	平坦
73cm 以下	3.0 以下	34 以下	20～22日	1mm	3.0	20kg	15kg
	3.0～3.5	38 以下	18～20日	2mm	3.0	20kg	15kg
	3.5～3.8	38～39		2mm	1.5～2.0		10kg
	3.8 以上	40 以上	18日	2mm	1.0 以下		7kg
73～79cm	3.0～3.5	34 以下	18～20日	2mm	1.5～2.0		10kg
	3.5～3.8	38～39	18～20日	2mm	1.0		7kg
	3.8 以上	40 以上			施用しない		
80cm 以上					原則として施用しない		

表4. 穂肥時期の目安

移植時期	穂肥の目安（平年）	出穂期（目安）
6月10日	7月23～25日	8月14日前後
6月15日～	7月25～27日	8月16～17日

注1) 早すぎる穂肥 → 止葉が伸び、倒れやすく、籾数が多すぎて登熟が悪くなる  
 遅すぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米の蛋白含量が高く食味が落ちる

注2) 多すぎる穂肥 → 倒れやすく、籾数が多く登熟が悪く、蛋白含量が高く食味が落ちる  
 少なすぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米がやせて品質が落ちる

注3) 中干し直後に葉色が淡く草丈が低い圃場についても、中干しの乾土効果（土壌中の有機体窒素が分解によって水稻に吸収される形になる）により、急激に葉色が濃くなる場合があるため、圃場の状況に合わせて散布する。

(4) 病虫害防除について

①海外飛来性害虫


- 7月22日現在、ウンカ類（セジロウンカ、トビロウンカ）は、6月25日頃、7月8日頃の飛来に加え、7月19日頃に新たな飛来が確認されている。
- 一部の圃場ではウンカ類の幼虫（セジロウンカ主体）が確認されている。
- 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

防除適期①

8/7～8/16頃

防除適期②（状況に応じ）

9/1～9/3頃

佐賀県 農業技術防除センター   
 ※防除適期は「幼虫ふ化揃い期」です。

②いもち病

- 本田で新たな病斑の発生が認められた場合は防除を検討する。
- 補植用の苗を圃場に放置すると、いもち病の温床となるので早急に撤去する。



図1 トビロウンカ各世代の発生予測（第3版、2022年7月20日作成）

(5) 除草作業

- 除草剤が散布できなかつた圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生が見られる。
- このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。

表 5. 残草の目立つ圃場での防除方法

使用例	除草剤名	剤型	使用時期	備考
ノビエの発生が多い圃場	クリンチャー 1 扣粒剤	粒	移植後 7 日～ル I 4L (但し、収穫 30 日前まで)	湛水散布 (3～4 日は湛水)
	クリンチャーEW	液	移植後 20 日～ル I 6L (但し、収穫 30 日前まで)	落水散布。展着剤加用する。
	ヒエクリーン 1 扣粒剤	粒	移植後 15 日～ル I 4L (但し、収穫 45 日前まで)	湛水散布 (3～4 日は湛水)
広葉雑草	バサグラン粒剤	粒	移植後 15 日～55 日 (但し収穫 60 日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 落水～ごく浅く湛水散布。最低 3 日間 (浅水処理は 5 日間) 入落水しない。</li> <li>• 処理後 2 日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。</li> <li>• 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。</li> </ul>
	バサグラン液剤	液	移植後 15 日～55 日 (但し収穫 50 日前まで)	
ノビエと広葉雑草の両方	クリンチャーバス ME 液剤	液	移植後 15 日～ル I 5L (但し収穫 50 日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 落水～ごく浅く湛水散布。最低 3 日間 (浅水処理は 5 日間) 入落水しない。</li> <li>• 処理後 2 日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。</li> <li>• 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。 (展着剤加用しないこと)</li> </ul>
	ハイカット 1 扣粒剤	粒	移植後 15 日～ル I 3.5L (但し、収穫 60 日前まで)	湛水散布 (3～4 日は湛水)
	ワイドアタック SC	液	移植後 20 日～ル I 6L	落水～ごく浅く湛水散布。 (展着剤加用しないこと)

注 1) 除草剤の再散布を行う場合は農薬の使用基準を遵守し、同一薬剤は避けて散布しましょう。

なお、再散布にあたっては最寄りの JA もしくは農業振興センターまでご相談ください。

注 2) 除草剤の散布に当たっては、剤により処理時の水管理が異なりますので注意してください

注 3) 薬剤は地区の暦参照 (掲載品目が異なるため)



# 大豆の今後の管理について

## 1) 大豆の生育状況

6月下旬から7月中旬にかけて多くの圃場で播種され、半数以上の圃場で播種作業は終了していますが、未だ播種できていない圃場や出芽していない圃場も一部に見られます。

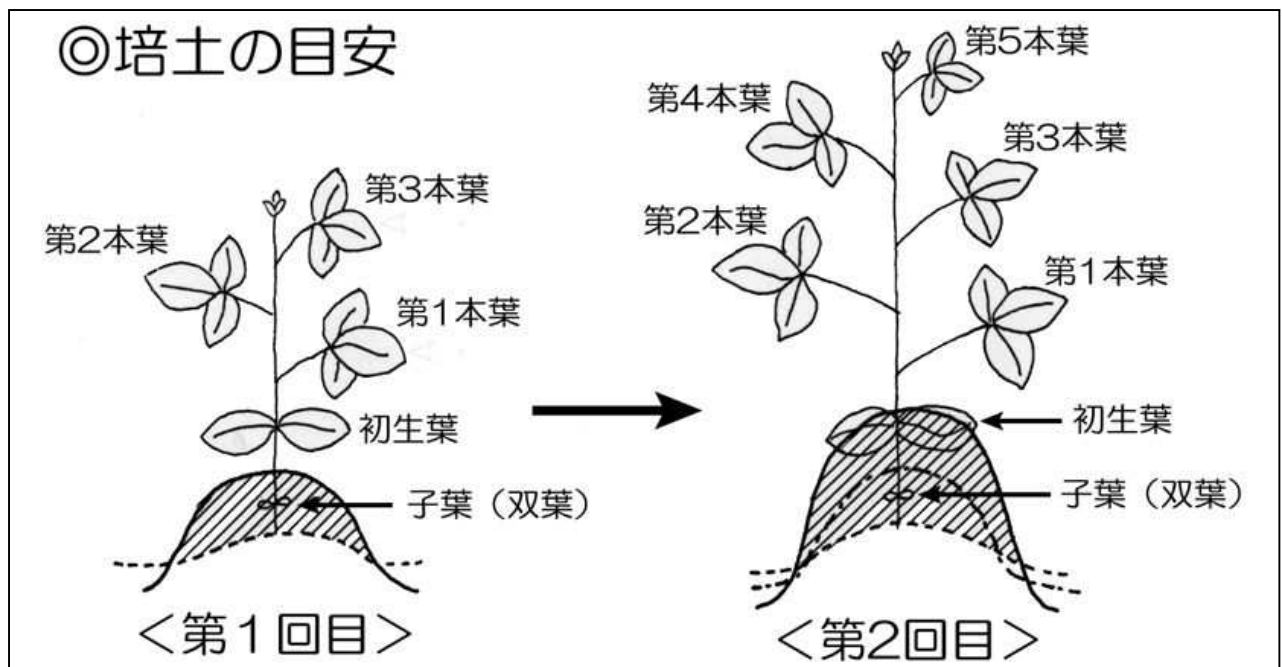
大豆の生育ステージは、播種期が6月下旬～7月中旬にかけて幅広いため、播種期により圃場間で生育格差が見られており、6月下旬頃播種が本葉3～4葉程度、7月上旬頃播種が本葉1葉程度、7月中旬頃播種が出芽期となっています。

## 2) 今後の管理

### ○中耕・培土の実施

6月下旬播きでは、1回目の培土時期を迎えています。本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行い、本葉が5枚開いたのを確認したら、初生葉（子葉の上の葉）が隠れる程度まで2回目の培土を行ってください。

特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行いましょう。



## 3) 今後の播種及び出芽が不十分な圃場での再播種

- 今後の週間天気予報を見ると、曇りや晴れの日が多く、比較的安定した天候が続く見込みです。
- 安定・多収を目指すには「出芽・苗立ち」が重要であり、播種前後の天気予報には十分留意して播種して下さい。
- 大豆は播種後2日間の大雨や浸水で発芽率が著しく低下する為、播種後2～3日以内に冠水するような大雨が予想される場合の播種は実施しないようにしましょう。
- 18日～19日にかけて断続的な降雨の影響により、一部に冠水した圃場が見られています。このような圃場で、播種から1週間程度経過しても出芽が見られない場合には土を掘り返し種子の状況を確認のうえ腐敗等で出芽が期待できない際は、再播種を検討してください。

参考) 週間天気予報 (佐賀県: 7月21日 11時時点 佐賀地方气象台より)

22日(金)	23日(土)	24日(日)	25日(月)	26日(火)	27日(水)	28日(木)
☁ 後 ☀	☀ 時々 ☁	☁	☁ 時々 ☀	☀ 時々 ☁	☁ 時々 ☀	☁ 時々 ☀

#### 4) 除草剤について

##### ○播種前処理

- ・雑草発生が目立つ圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤（ラウンドアップ、プリグロックスなどは耕起前日でも枯殺可能）を散布して下さい。

- ・ラウンドアップは1日で吸収移行するため、散布後1時間後の降雨OK
- ・プリグロックスは1日程度で効果発現、散布後15分後の降雨OK

※稲への影響が大きいため周囲の水稻等への飛散がない様、十分注意してください！

##### ○播種後処理

- ・播種直後に土壌処理剤を散布して下さい。なお、難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場ではフルミオ、ラクサー乳剤が効果的です。

#### 5) 圃場準備について

- ・荒起しは、なるべく播種前日～当日に行います。播種後に晴天が予想される場合には、乾燥による発芽率の低下が懸念されるほか、耕起後に雨が降ると水を多く含み、播種が暫くできなくなるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けないようにしましょう。

#### 6) 播種について

##### ○種子消毒

- ・紫斑病やその他の雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上に効果がある為、種子消毒を必ず実施して下さい。

##### ○播種量の調整

- ・今後の播種では、大豆の収量を確保するため、下記の播種様式例を参考に、播種量を増やすことで、播種時期にあった栽植本数を確保しましょう。

播種期	栽植本数 (本/m <sup>2</sup> )	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月21～25日	18本	(2条播き)75cm×15cm×2本	5～6kg/10a
	20本	(3条播き)50cm×20cm×2本	
7月26～31日	24本	(2条播き)75cm×11cm×2本	7～8kg/10a
	27本	(3条播き)50cm×15cm×2本	

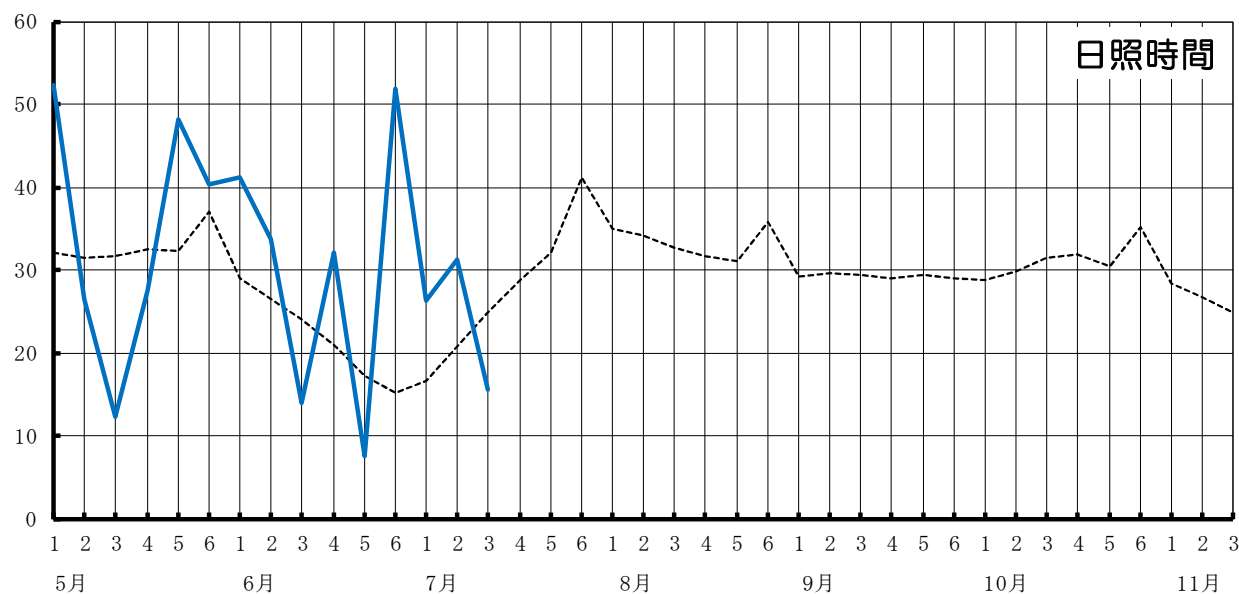
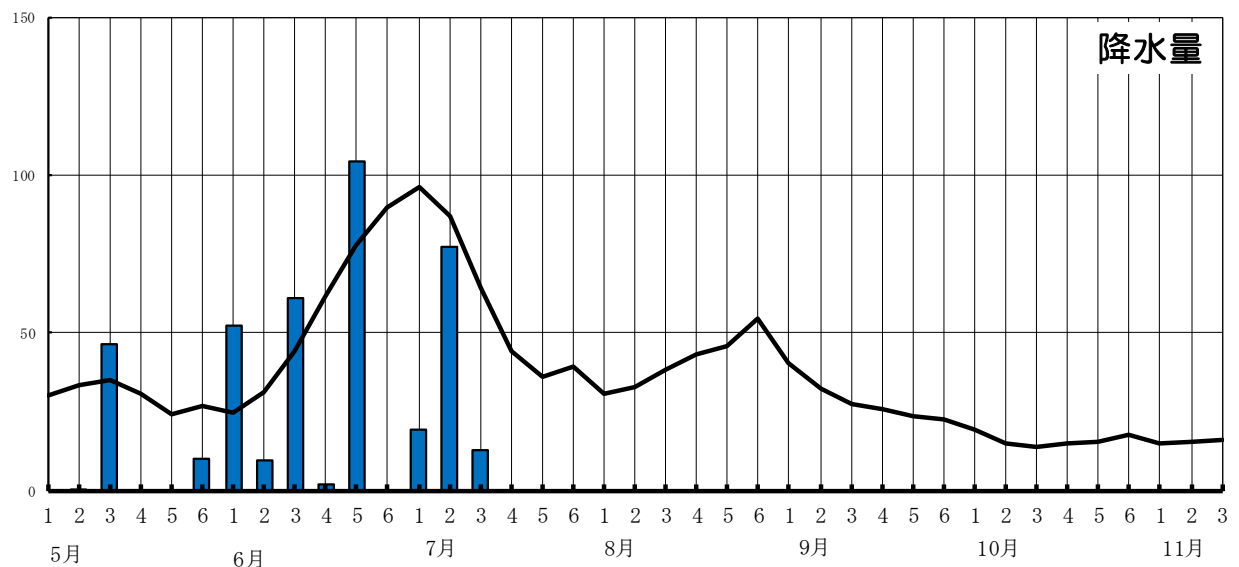
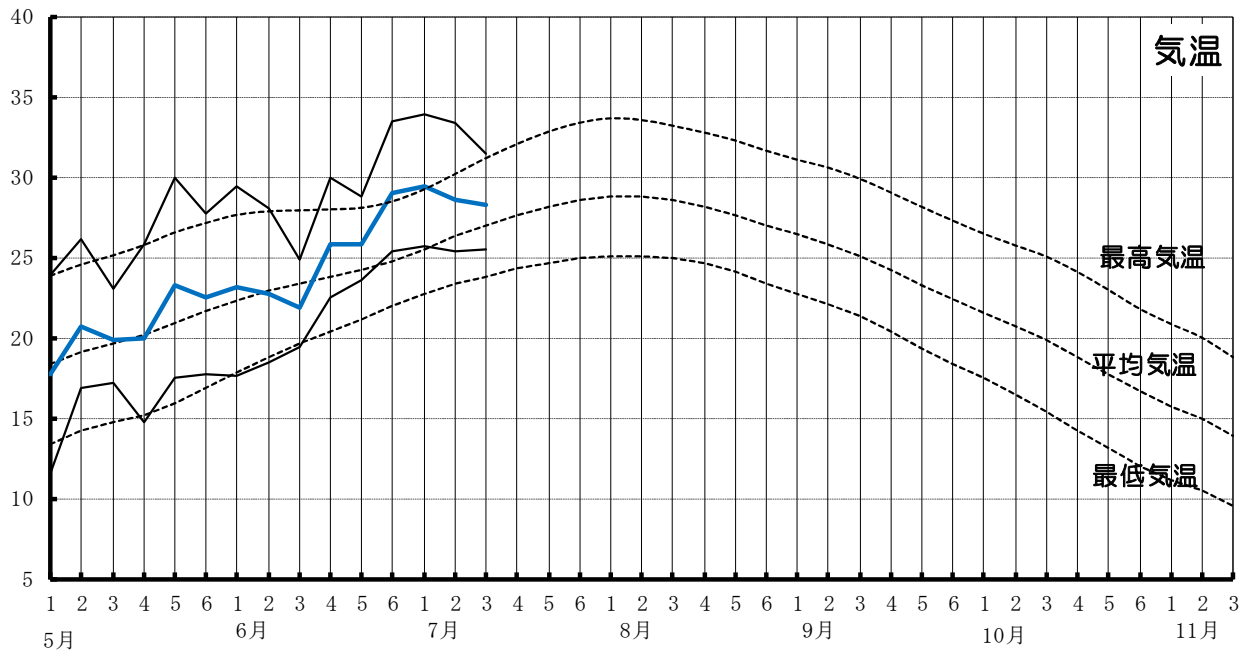
※7/26～播種圃場において地力が高くない圃場については、窒素成分で4kg/10aの基肥を施用する必要があります。

##### ○播種深度等

- ・播種後に降雨が多い予報の場合、2～3cmの浅めにし播種後の鎮圧は行いません。
- ・播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧を行います。
- ・1工程で播種する場合には、碎土率を高めるため、作業速度を遅くしましょう。
- ・播種作業には、麦用の「片培土板」をロータリに装着して畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、湛水による出芽不良を軽減することができます。

# 令和4年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

三神農業振興センター





各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## トビイロウンカの新たな飛来（7月19日頃飛来） に伴う今後の発生予測について

トビイロウンカについては、6月25日頃の飛来（6月29日付け病害虫対策資料第3号）、7月8日頃の飛来（7月14日付け病害虫対策資料第4号）に加え、7月19日頃に新たな飛来がみられたことから（表1）、各世代の発生予測図を更新しました（第3版、図1）。ついては、各地域における発生状況の把握や防除要否の検討にあたっての参考としてください。

なお、本発生予測図については、今後の飛来状況や気象経過等に応じて更新します。最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認してください。

### 記

#### 1. 飛来状況

1) トラップ調査（表1）や気象解析の結果等から、前々回の6月25日頃、前回の7月8日頃の飛来に加え、今回、7月19日頃に新たな飛来があったと考えられる（表1）。

#### 2. 防除対策

1) トビイロウンカに対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。

2) 本種の発生状況は、田植え時期に加え、品種、地域およびこれまでの防除の違い等によって、圃場ごとに発生状況は大きく異なる。このため、発生予測図（図1）を参考にし、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。

表1 イネウンカ類のトラップでの捕獲状況(2022年)

月	日	トビイロウンカ		セジロウンカ	
		佐賀県		佐賀県	
		佐賀市 ネットトラップ <sup>※</sup>	嬉野市 ライトトラップ <sup>※</sup>	佐賀市 ネットトラップ <sup>※</sup>	嬉野市 ライトトラップ <sup>※</sup>
6月	1日	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0
	4日	0	0	0	1
	5日	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0
	14日	0	0	0	1
	15日	0	0	0	1
	16日	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0
	19日	0	0	0	1
	20日	0	0	0	4
	21日	0	0	2	0
	22日	0	2	5	1
	23日	1	0	4	0
	24日	1	7	3	2
	25日	1	41	3	18
	26日	0	1	2	2
	27日	0	65	1	8
	28日	0	0	1	1
	29日	0	0	0	0
	30日	0	0	0	0

月	日	トビイロウンカ		セジロウンカ	
		佐賀県		佐賀県	
		佐賀市 ネットトラップ <sup>※</sup>	嬉野市 ライトトラップ <sup>※</sup>	佐賀市 ネットトラップ <sup>※</sup>	嬉野市 ライトトラップ <sup>※</sup>
7月	1日	0	0	0	0
	2日	-	0	-	0
	3日	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0
	5日	0	1	0	0
	6日	0	1	0	0
	7日	0	0	0	0
	8日	0	36	0	71
	9日	-	2	-	9
	10日	0	1	0	1
	11日	0	1	0	41
	12日	0	0	0	3
	13日	0	0	0	4
	14日	0	0	1	9
	15日	0	5	0	10
	16日	0	7	0	4
	17日	0	4	0	2
	18日	0	2	0	1
	19日		113		74
	20日				
	21日				
	22日				
	23日				
	24日				
	25日				
	26日				
	27日				
	28日				
	29日				
	30日				
	31日				

注)佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野市ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

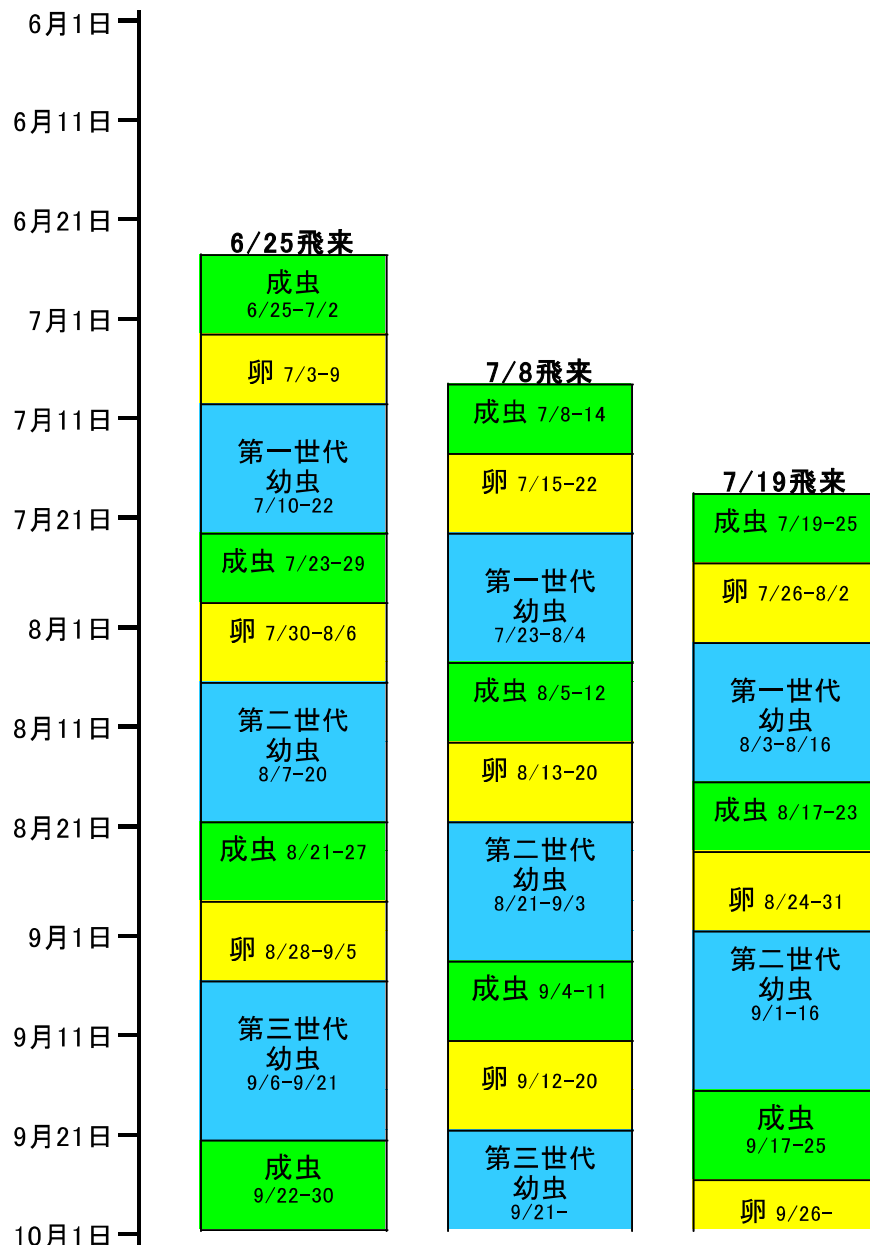


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第3版、2022年7月20日作成)

1. 6月23～25日頃(図では6月25日)、7月8日頃、7月19日頃の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月20日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の飛来状況や気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail [nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp](mailto:nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp)

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

